

# 千葉破壊の尖兵=反動密通裏切り分子を許すな!

## 取場からの断固たる大衆的追及行動を

全国大会は、動労大改革の出発点を形成し、全国的総決起を生み出し、革マル反動分子の圧力(泣訴・どう喝)も空しく片肺欠陥執行部として発足せざるを得なかったことは、すでに明らかにしてきた。動労「本部」革マル反動集団は、この全国大会で組織的にも路線的にも追いこまれ、丸裸となり、ついに、合理化屈服、権力・当局の尖兵化と、より一層の暴力路線の全面開花を余義なくされその反動性を露呈し、馬脚をあらわにした。われわれの七ヶ月間の激闘の勝利は、動労大改革の巨大な火柱として燃え上がったことは、まぎれもない事実である。こうした、鉄の団結を、敵の密通分子になりさがり、内部から動労千葉破壊の尖兵として、革マル反動集団と結託し、組合の暴力支配を肯定し、右翼的路線に迎合し、闘いを圧殺し、当局に媚を売り、職場内を混乱させ、そのことに喜ぶのはだれか。われわれは、こうした権力・当局の介入を許し、当局の企図する第二マル生への助長者となる破壊分子を放置する訳にはゆかない。

### 山田 銚子

支部の確認を踏みにじり、  
居直る反動分子山田!

銚子支部の執行委員でありながら全国大会に参加し、「銚子支部長の山田さん」と司会から紹介されて「四支部・七名を代表して」壇上から挨拶まで行った山田の責任をわれわれは満腔の怒りをこめて追及しなければならぬ。

山田の反組織の実態は、**第一に**、3・30動労千葉結成大会に代議員として参加し、新組織の結成に賛成しておきながら、裏では、革マル反動分子と密会し、動労千葉破壊の尖兵をつとめてきたこと。**第二に**支部臨大(七月二〇日)で決定した「白紙に戻す」を一方的に無視し「動労本部派」を公言していることなど数多くの反組織的行為。**第三に**、こうした行為に対し、われわれが追及したところ一俺は、動労千葉でも動労「本部」でもない、動労組合員として全国大会に参加した「などと全く人をくつたいい方をしているのである。銚子支部組合員は、今日このままの無権利状態をなんとしても克服し、一つの方向性を見い出すために、連日苦闘している。その中において、役員という重責を放棄し、支部の仲間の確認さえ平気で踏みこじって自分さえ良ければ他はどうでもよいという考え方自体、銚子組合員に受け入れられるはずはないのだ。

### 嶋田 齊藤 津田沼

頭かくして尻かくさず、革マル  
送り込みスパイの正体を自己暴露!

おもてむき何くわぬ顔で、団結署名をやり、支部結成大会にも参加しておきながら、革マル反動分子の送り込みスパイ分子として、裏で東京地本内革

マルの指示をうけて、4・17津田沼襲撃の手引きをはじめ、数々の卑劣な裏切り行為を働いていた津田沼支部の嶋田、齊藤(吉)は、今日、職場組合員の圧倒的な連日の追及行動にふるえ上がり朝居直り発言を続けている。

当初彼らは、「全国大会には参加していない」「証拠を見せろ」などとうそぶいていたが、参加していた人間の証言や大会終了後はじまった連日の革マル反動集団の出勤・退庁時の「防衛動員」をもって逆に彼らの反組織的行為は、具体的事証をもって職場全員の眼に明らかになってくるにつれ、職場の怒りは日に日に高まっている。

とりわけ嶋田は、昨年、国労の役員選挙にセクト的思想をもって介入し、その責任を逃げるため「動労から脱退して国労に加入する」などということをして二度に亘って策動し、糾弾されていた。ところが、今度は「千葉再建」の破綻をごまかすことに必死の「本部」反動革マルは、遂に、万策つきはてて「革マル送り込みスパイ分子」までをも裸で、全国大会に引っぱり出し、馬脚をあらわしてしまおうという末期的なあがきにこころげこんだのである。

革マル反動集団の消耗品!!さらしもの  
と化した反動分子を一掃しよう!

革マル反動集団のさらしものに利用された、反動分子のゆきつく先は明らかである。われわれは、こうした反動分子に、革マルと密通した裏切り行為がいかに罪深いものか、組織の団結がいかに強いのものか、日常的職場追及と徹底した糾弾行動をもって思い知らせてやるうではないか。

